

皆さんこんにちは。今日は、お客様としまして、大阪東RC井上様、ようこそお越しいただきました。ごゆっくりとお過ごしください。

先日、テニスの全豪オープン女子シングル決勝で「大坂なおみ」が、日本人として初めて優勝しました。大阪選手は、昨年の全米オープンに続く優勝で、四大大会2連勝は、2015年のセリーナ・ウィリアムズ(米国)以来。大会後の世界ランキングで、男女通じアジア選手初の1位の座につきました。優勝賞金は約3億2千万円です。

今日は「カジノ」の話します。

大阪府・大阪市は、2025年万博の会場と同じ人工島「夢洲(ゆめしま)」にカジノを含む総合型リゾート(IR)の誘致を目指し、巨大な経済波及効果に期待を寄せます。

国内にカジノが開設された場合、実際に入場料(6,000円)を払って訪れる人の多くは、高額所得者と予想されます。会場ではカジノ運営者から資金を借りて賭けることができ、多額の金が動きます。

懸念されるのは、多くの従業員を抱える企業の経営者らが、巨額の債務を抱え、経営を揺るがすような事態を招くことです。グループ企業から無利子で借金を重ね、約106億円を海外のカジノにつぎ込んだ元大王製紙役員 の例もあります。

カジノを所管する「国土交通省」は、(賭け金を借りる)利用者はかなりの富裕層に限定される。個人情報に踏み込んで、顧客1人ひとりの貸付限度額を設定する方針を示しました。

マカオでは、「ジャンチット」と呼ばれる公認の仲介業者がVIPルームの運営を取り仕切り、富裕層への貸し付けや、債務の回収など、取引の多くを担っています。

警察庁のまとめでは、2017年に全国で摘発された刑法犯のうち、「ギャンブル依存」が動機だったケースは、2500件を超えました。内訳は(窃盗1997件、詐欺337件、横領55件、偽造21件、強盗18件など)。

大半が金に絡む事件、当事者だけでなく、身近な人まで巻き込んでしまう恐ろしい病です。それがギャンブル依存症です。

ギャンブル依存症には、確立された治療法がなく、新たな社会的リスクにつながるとの指摘もあります。カジノ開業までに有効な処方箋を描くことができるのでしょうか。

